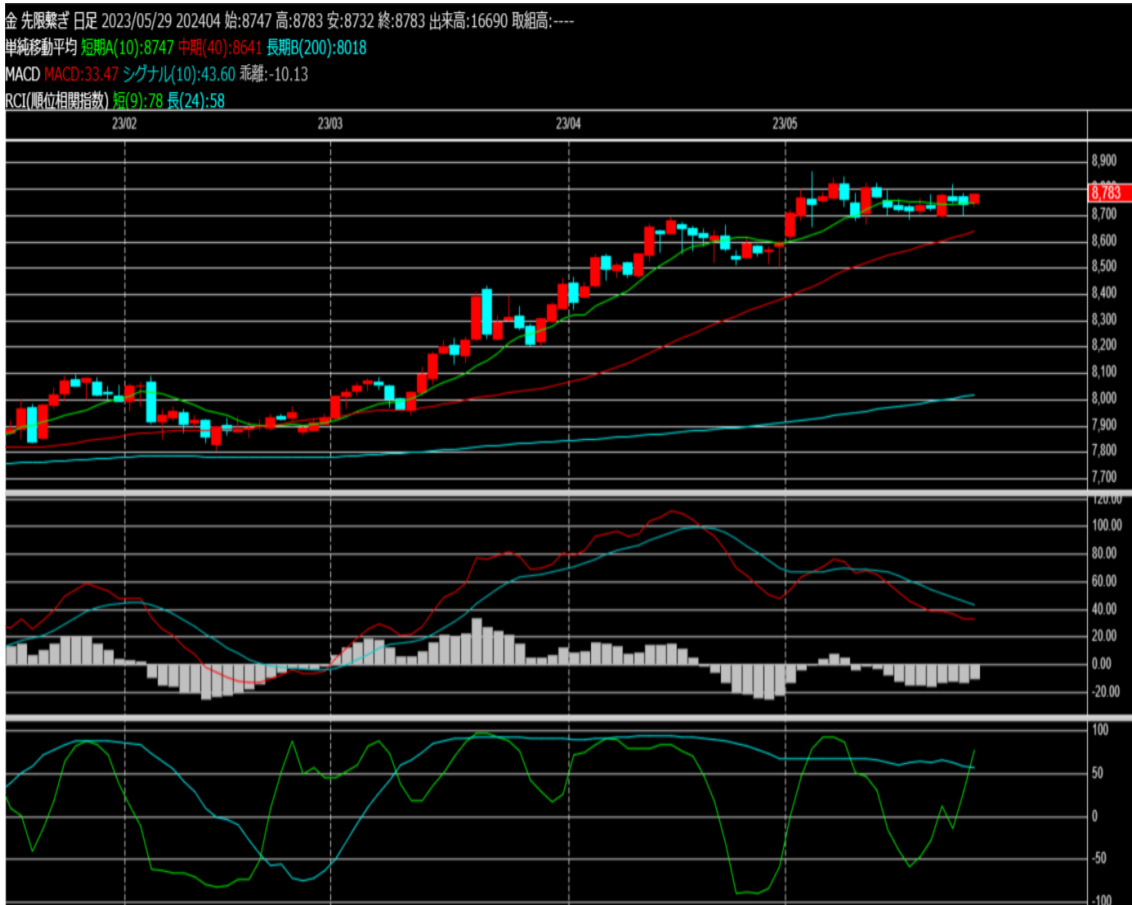


<金標準、PCE デフレーターの上昇でドル高・円安支援・・・>



(出所：オアシス)

債務上限問題で一時合意に近付いた雰囲気は後退し、デフォルト・リスクが高まる中で債券が売られて金利は上昇するなどドル高・円安の動きをサポートしている。特に26日のマッカーシー下院議長は「われわれは夜まで作業した。進展があったと思う」と発言し「今朝も進展したと思う」と言及しており、週末には合意する可能性を示している。またデフォルトのXデーに対してイエレン財務長官は6月1日～2日に掛けて1300億ドルの支払い履行の目途が立ち、6月5日のXデーを引き下げている。特にデフォルト・リスクが後退し、逆にPCEデフレーターが前年比で前月の4.3%を超え4.4%となるなど依然と高いインフレを示した事から、6月のFOMCにおいて利上げの確率が上がっている。そのため週末の雇用統計のハードルが上げられ、円安が進む環境下だけに金標準先物は8800円を試す可能性は強まったと思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDが下げ渋り、シグナルは下げている。またRCIでは短期が上昇し、長期を上回るなど強気を示唆する状況である。特に日足が10日移動平均線を上回り続けており、再度目先の高値8819円に向けた上昇が予想されると思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,975,000 円(2023 年 5 月 29 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 40,700 円(2023 年 5 月 29 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>